

## 令和3年度実績報告分

## 「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	好日苑		施設番号	K-184
項目	評価結果に基づく現状分析 (令和3年度)	改善計画 (令和3年度末時点)	実施状況(予定を含む) (令和4年4月30日時点)	左記実施状況に実施予定が あった場合の実施状況 ( 年4月30日時点)
PDCAサイクルに沿った研修体制について	今後の研修は、PDCAサイクルに沿って継続して活用及び更新する体制を構築していく事が求められる。施設では、好日苑育成システムや充実した研修体制があり、特養の内部研修体系が整備されている。職員等は研修や自己研鑽等を業務に反映している。今後はPDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルに沿って、継続的に活用・フィードバックをおこない、全職員が共有できる体制及び見直しする体制を構築していく事が求められる。研修終了後も、受講の学びを各フロアで活かすため、参加者同士でチームを作り、職員個人に対して、課題を科し期間を設けて振り返る等、実際のケアや職員育成につなげていく事が求められる	研修で得た知識を施設全体で活用し利用者支援や職員育成に繋がるよう、研修受講者の研修報告書を基に、研修受講者が講師となり、内部研修及び勉強会を実施していく体制を整えていく。	1 実施済み  ② 実施予定(令和4年4月ごろ)  具体的には以下のとおりです。令和4年度の研修計画に沿って、職員の外部研修等の機会を提供し、その研修を受講した職員が講師となり、内部研修や勉強会を企画、実施し、ケアの質向上及び職員育成に繋げていく予定。	1 実施済み ( 年 月)  具体的には以下のとおりです。
無資格・未経験者の育成について	介護職員の必要性が常態化している中で無資格・未経験な職員へのサポート体制とOJTを実施し、さらなる支援技術の向上に期待したい。感染症対策を継続していく中で日々の利用者の暮らしが、その人らしい暮らしになっているか確認をしている。重度化の進行や認知症の進行から利用者の体調管理などの難しさを感じている。認知症ケアを多職種と連携を図りながら穏やかな日常生活に向け職員は努力してきた。今回、介護職員の必要性が常態化している中で無資格・未経験者な職員の受け入れをおこない、日々、OJTを実施しながら職員育成に取り組んでいる。今後も適切な人員配置を行うとともに、継続して多職種と連携しながら、職員育成を実施し、さらなる支援技術の向上に期待したい。	資格取得支援の一環として、東京都の補助事業である「介護職員就業促進事業」への参加を継続し、無資格・未経験者が安心して働きながら初任者研修等の資格取得が行えるよう支援していくと共に実務者研修についても「好日苑校」を開校し職場内で資格取得の勉強が受けられる体制を維持。	① 実施済み  ② 実施予定(令和4年5月ごろ)  具体的には以下のとおりです。令和3年度は、就業促進事業において無資格・未経験者1名を採用。無事に初任者研修の受講を終了する事が出来ました。また令和3年度中に4名の実務者研修を好日苑校を開校し実施。4名共に無事に実務者研修を終了する事が出来ました。令和4年度も東京都就業促進事業への参加申し込みを実施するとともに、実務者研修受講希望者に対して好日苑校の開校を予定していく。	1 実施済み ( 年 月)  具体的には以下のとおりです。
最先端技術の早期導入について	介護職員等の業務の負担軽減・オペレーションの効率化や、環境レベルでの実用化を目指している最先端技術導入の早期の実現に期待したい。近年は、医療ニーズの高い重度の要介護者や認知症高齢者の利用者が増える傾向にあり、多様なニーズに合わせたケアが求められている。介護現場では慢性的な人手不足で、介護業務の負担増加が問題になっている。介護職員の負担軽減・オペレーションの効率化を図るために、介護ロボット等を導入し、現場レベルでの実用化を目指しているが、設備環境整備の遅れに伴い、ICT(情報通信技能)に支障をきたしている。Wi-Fi等の設備環境を整備し、介護ロボット等の実証を実施して環境レベルでの実用化を目指す最先端技術導入の早期の実現に期待したい。	厚生労働省が主催している「介護ロボットプラットフォーム」事業への継続的参加と東京都の補助事業である「次世代介護機器導入支援事業」への参加を計画する共に、委員会にて介護ロボットの適正活用について管理(評価と課題抽出)を行っていく。また中期経営計画にてWi-Fi等の設備環境の導入に向けて計画していく。	① 実施済み  2 実施予定( 年 月ごろ)  具体的には以下のとおりです。「次世代介護機器導入支援事業」を活用し移乗用ロボット「Hug」を2台導入。ノーリフティングポリシータスクフォース(NPTF)委員会にて使用方法と対象者の選定を行い、実際にケアに活用。毎月の委員会にて使用状況の把握と課題抽出を行っています。またICT化については介護ソフトの「Wincare」やサイボウズの活用を継続し業務のスマート化を実施しています。	1 実施済み ( 年 月)  具体的には以下のとおりです。

※この様式は、「令和3年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。

令和2年度実績報告分

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	好日苑		施設番号	K-184
項目	評価結果に基づく現状分析 (令和2年度)	改善計画 (令和2年度末時点)	実施状況(予定を含む) (令和3年4月30日時点)	左記実施状況に実施予定があつた場合の実施状況 (令和4年4月30日時点)
取り組みの見える化について	人材育成制度等、全体像の見える化・さらなるスマート化に期待します 職員を貴重な資産の一つと捉え、各種人事制度の仕組みが整えられています。また、特筆すべきは、それらの制度や仕組みを運用する立場にある中間管理職層が、「理念の実現への高い意欲」や「より質の高い支援に対する志」を持っている事が一番の強みと言えます。第三者として、今後は、この強みをさらに強固にすべく、また、コロナ禍である事を踏まえ、ピースフルライフ＝ピースフルケア、六つの風船、法人理念、サービス方針、重点項目、BS等の各種人材育成制度や教材等、統合や連動性の向上、全体像の見える化・さらなるスマート化等に期待します。	事業計画(Peaceful Life体系図、各会議の目標と具体的取組の見える化、各研修体制の見える化)に体系図を見える化し各会議にて取り組むべき課題を明確化する事で、利用者が安心して暮らせる基盤整備及び働き甲斐のある職場環境を整える。	① 実施済み  2 実施予定(令和 年 月ごろ)  具体的には以下のとおりです。令和3年度事業計画に「ピースフルライフ体系図」を記載し、視覚化を行うと共に、令和3年度事業計画の重点課題・目標として「職員育成システム」「先手のケア」「スマート化」「ピースフルケア」「認知症ケア」「ノーリフティングケア」の取り組み内容も分かり易く記載し施設全体でピースフルライフの実現に向けて取り組みを行いました。	1 実施済み ( 年 月)  具体的には以下のとおりです。
接遇について	好日苑らしい接遇のさらなる徹底に期待します 接遇面については、独自の仕事基準書や育成手帳内の「使ってはいけない用語解説」等の資料を用いて、職員に指導しています。今年度の利用者調査では、「職員の言葉遣いや態度は適切か」との設問に、利用者・家族の回答者の約80%程度が、「そう思う」と回答しており高い評価を得ています。一方で、少数ではありますが、職員の発言に不満を持っているといった回答も見られます。この点について、既に「好日苑の職員として求められる接遇」は明示されている事から、指導すべき対象や指導方法等について議論を深めて欲しいと思います。	利用者が安心できる基盤整備として、定期的な「虐待の芽チェックシート」の活用と傾向と対策の検討を実施。また令和3年度より「虐待防止委員会」を新たに設置し、不適切なケアについて検し、各会議にて全体周知を実施していく。	1 実施済み  ② 実施予定(令和3年4月ごろ)  具体的には以下のとおりです。「虐待の芽チェックシート」を実施すると共に接遇マナーについての意見交換を実施し、改めて不適切ケアについての考え方を共有。法人として令和3年4月より「虐待防止委員会」を設置。	① 実施済み (令和4年4月)  具体的には以下のとおりです。令和3年4月より「虐待防止委員会」を設置し毎月1回(第3金曜日)に委員会を実施。「虐待及び不適切なケア」についての予防策等について検討。検討した内容は、毎月初めに開催する「特養会議」において報告し、全体周知を図りました。また「虐待の芽チェックシート」も年2回実施し、実施内容を「リスク管理委員会」にて分析。傾向と対策を検討し全体周知を図りました。
について			1 実施済み  2 実施予定(令和 年 月ごろ)  具体的には以下のとおりです。	1 実施済み ( 年 月)  具体的には以下のとおりです。

※この様式は、「令和3年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。

**私たちの施設は、都からの補助や介護報酬、利用者からの利用料等によって運営されています。**

<特別養護老人ホーム>

施設名	好日苑	施設番号	K184
-----	-----	------	------

令和3年度における施設データ

総事業費（事業活動支出）	608,140,511円
人件費	411,331,222円
定員数	138人
利用者数（令和4年4月30日時点）	137人
常勤職員数（令和4年4月30日時点）	75人
非常勤職員数（令和4年4月30日時点）	30人

施設の収入（特別養護老人ホーム経営支援補助金の状況等）【令和3年度実績】

介護報酬	536,437,527円
その他利用料	137,070,087円

東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付額（都独自の運営費補助）		5,778,000円
基本 分 評 価 加 算	①施設整備等に係る経費の補助（施設振興費）	0円
	②医療対応強化支援加算	200,000円
	③努力・実績加算	4,978,000円
	④第三者評価の受審・サービス向上に向けた計画策定	第三者評価又は利用者調査 600,000円
	⑤その他加算（小規模施設加算等）	0円

※この様式は、「令和3年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、閲覧を希望する方に公開しています。